

令和6年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会  
胃がん部会 概要

1 日時：令和7年2月19日（水） 13：30～15：00

2 場所：オンライン

3 出席者

	氏名	所属
委員	清水 雅仁	岐阜大学大学院消化器内科学 教授
	後藤 裕夫	岐阜赤十字病院 放射線科
	鳥澤 英紀	県医師会 副会長
	末次 かな子	ぎふ総合健診センター 診療放射線技師
	橋本 由紀	市町村保健活動推進協議会保健師部会（美濃加茂市）
オブザーバー	山田 敬一	東濃保健所 所長
事務局	居波 由紀子	保健医療課長兼健康推進室長
	田中 和美	主幹兼がん・受動喫煙対策係長
	大津 出海	主任

4 議題

- (1) 令和5年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会胃がん部会議事報告
- (2) 岐阜県のがんの現状
- (3) がんの予防（胃がん検診）の推進について
  - ①科学的根拠に基づくがん検診の実施について
  - ②適切な精度管理の実施について

5 議事概要

【(2) 岐阜県のがんの現状】

- ・岐阜県のがんの年齢調整死亡率は、全国平均よりも高い値で推移していたが、令和5年度は全国平均を下回った。
- ・特に女性の年齢調整死亡率が令和4年と比較して大幅に減少している。理由は明確ではないが、胃がん検診の受診率が増加してきたこと、罹患率が減少してきたこと、内視鏡検査等により早期の胃がん発見・治療ができるようになってきたこと等によると推測される。

- ・胃がんの年齢調整罹患率は、全国よりも高い値で推移しているが、減少傾向にある。
- ・地域保健・健康増進事業報告による胃がん検診の受診率は、令和2年までは減少傾向にあったが、令和3年以降は増加している。
- ・市町村、医療機関から、「胃がん検診の受診者はリピーターが多く、新規に受診される方が少ない」という意見が挙げられた。今後の受診率の向上のために、さらに啓発を続けていく必要がある。

【(3) がんの予防（胃がん検診）の推進について ①科学的根拠に基づくがん検診の実施について】

- ・胃内視鏡検査を実施する市町村は増加傾向にあり、令和6年度は県内の半数以上の市町村が実施している。
- ・胃内視鏡検査を実施していない市町村に対しては、受け入れる医療機関側のキャパシティに限りがあることなどの市町村ごとの事情・課題を把握し、実施市町村の好事例を情報提供する等、指導・助言をしていくことが必要である。
- ・指針に基づかないABC検診やヘリコバクターピロリ抗体検査を実施している市町村がある。リスク検診とがん検診は異なることを住民にわかりやすく説明することが必要。また、対策型検診としては推奨されていないこと、リスク検診とがん検診の同年度の受診不可は不利益となることについて部会として通知を行い、文書による指導とする。

【(3) がんの予防（胃がん検診）の推進について ②適切な精度管理の実施について】

- ・市町村、検診機関のチェックリスト及びプロセス指標の改善に向けて、市町村から積極的に検診機関へ働きかけを行うこと、保健所が実施するヒアリング等によって得た県内市町村の好事例について水平展開をしていくことが必要である。
- ・市町村に胃部X線検査における偶発症の発生状況について照会した結果、胃部X線検査は幅広い年代で誤嚥が発生しており、特に70代以上の受診者で多く発生していることが分かった。
- ・胃部X線検査について、県内においては特に高齢者で誤嚥が多い傾向にあるが、現時点で一律に受診の年齢上限を設定することは難しい。今後は、県内の不適正事例のデータを蓄積し、部会でも検討を続けていく。

⇒上記協議結果について、市町村及び検診機関に周知を行い、精度向上に向けた取組みを促していく。